



佐藤 基
(仙台赤十字病院提供)

佐藤基は明治二十七年（一八九四）年、東根村（現在の角田市東根）で生まれました。小さいころから勉強熱心で、医者になって病気で苦しむたくさんの人を助けたいという夢をかなえるために、大学に入学しました。当時東根村から大学に進学した人は初めてで、大変な話題になり、村中の期待を背負っていました。

大学卒業と同時に医師免許を取った基は、ついに念願だった医師としての第一歩を踏み出しました。基が医学を学んでいた大学には病院が併設されていたので、そこで医学部助手として仕事をするようになったのです。

毎日患者と向き合い診察をすることは、基にとってもやりがいのある日々でした。しかし、患者の病気に苦しむ姿や治療のいかなく死に直面する姿を見るたびに、自分の無力さを感じることもしばしばありました。そこで研究熱心な基は、同じ病院に勤務していた医師、熊谷先生の研究チームに入り、患者の診察が終わった後も夜遅くまで研究に打ちこみました。新しい治療方法や薬を自分たちが発見することが、苦しんでいる患者を救うための一番の近道だと考えたからです。



基たちが一番力を入れていたのは糖尿病についての研究でした。

糖尿病は、体に症状が表れるまでは病気とは気づきにくく、病院で診察を受けた時には病気がかなり進行している患者も多くいました。ひどい時には足を切断しなければならなかったり、目が見えなくなったり、目が見えなくなるほど重い病気です。その当時は、治療の方法がなかったため、医師は糖尿病の患者さんに対して何も治療ができませんでした。基はそんな糖尿病で苦しむ患者と向き合うたびに、なんとか助ける方法はないかと心を痛めていたのです。

糖尿病の研究を始めてから二年の月日が流れても、なかなか思うような研究成果は出せませんでした。「このまま研究を続けていったところで、本当に糖尿病の治療法を見つけれられるのだろうか。こんなことを続けていても何も発見できなければ時間の無駄になってしまうのではないだろうか。」

昼も夜も患者のことを考え、診察や糖尿病の研究に打ちこんできた基でしたが、肉体的にも精神的にも疲れ、心に迷いが出てきました。

しかし、そんなとき基の頭に浮かんだのは、糖尿病で苦しむ患者の姿でした。治療もできずに亡くなっていった、自分が医師として救えなかった多くの命への無念さが、基の胸にこみ上げてきました。

「弱気になってはいけない。患者さんのために研究を続けていかなければ。」

このころから、基はこれまでに以上に熱心に研究に励むよう



インシュリン：
現在ではインスリンと呼ばれている。

糖尿病：
血液中のブドウ糖は私たちの体のエネルギー源となるが、この血液中のブドウ糖の濃度が高くなり過ぎることによって起こる体の不調。

無念…
くやしついたらならなう。



血糖値：
血液中のブドウ糖の濃度。高くなり過ぎると、糖尿病の原因となる。

になりました。そして大正十（一九二一）年、ついに基の所属する研究チームが、糖尿病の治療と関わりのある血糖値を下げる効果のあるインシュリンという成分を発見しました。これまで糖尿病に有効な薬がなかったため、インシュリンの発見はノーベル賞をもらえるほど偉大なことでした。インシュリンの発見に日本の医学界は大喜びし、基たちは早速ノーベル賞をもらえるよう手続きに取りかかりました。しかし、同じ時期にインシュリンを発見したカナダの医師バンディングが、一足早く手続きをすませているため、ノーベル賞はバンディングの手に渡ってしまいました。

周りの人々はノーベル賞を逃したことをたいそうくやしがりしましたが、基はいつものように患者と向き合い、たんたん診察を続けました。

その後、基は功績が認められ、仙台赤十字病院の院長として活躍しました。仙台空襲で病院の建物が焼けてしまうという困難があっても、診察を望む多くの患者のために、仙台市内を駆け回り、近くで病院の代わりになるような建物を探し、そこで診察を続けました。

医学に対しての知識が豊富で、医師として腕が確かであるという基の評判は県内中に広がり、遠くからも診察を希望する患者が訪れました。また、どんなに遠くでも、どんなに遅い時間でも、苦しむ患者のいるところに駆けつけ、昼夜を問わず診察をしました。

年を取っても基の「患者さんを救いたい」という気持ちが変わることはありませんでした。医師とし

て患者のそばに寄りそい続けた基の努力で、多くの患者が救われ、笑顔になったのです。

昭和四十三（一九六八）年、基は、家族に見守られながら、七十五年の生涯を終えました。

現在では、糖尿病の患者も元気に生活することができています。それは基たちが発見したインシュリンを使って血糖値を下げることができるようになったからです。ノーベル賞を取ることはできませんでしたが、基たち研究者の発見は今でも光り輝き続けています。



（イラスト 鵜飼 理恵）

佐藤 基

佐藤 基は、明治二十七（一八九四）年、東根村（現在の角田市）で生まれた。医者の仕事しながら研究に励み、インシュリンという成分を、世界で初めて発見した。発表の手続きに時間がかかったため、ノーベル賞を逃したが、医者としての信頼はさらに高まり、その後も病気で苦しむ人々を救った。

功績：
世の中のためになすくれた働き。